



山口さま

●おとうさん
力さま
●おかあさん
真理さま
●赤ちゃん
利紗(りさ)ちゃん
平成26年11月19日生
2,936g 女の子



はじめまして

待望の妊娠が判明してすぐに、ひどいつわりが始まりました。水分も食事もとれず、3週間の入院で、点滴の毎日でした。そんな中でも赤ちゃんは順調に成長してくれました。出産の際には、先生方・助産師さん・夫に支えてもらい、無事元気な女の子を出産することが出来ました。

名前の由来は、「利」という字には、「物事がすらりと運ぶさま」という意味があり、この先の人生が順調に運ぶよう願って名付けました。

医科大スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

医科大どおり

【冬号】2015季刊誌 第20巻第4号 発行／金沢医科大学病院

編集／金沢医科大学病院ユース編集委員会

私の好きな風景

長野県の地獄谷野猿公苑にある猿専用に作られた温泉の露天風呂は、冬になると厳しい寒さをしのぐためや、家族のコミュニケーションをとるために入ってきた親子のサルたちで一杯になる。一家族が寄せ合って、目をつむり温かく気持ち良さうにして温泉に浸かっている様子を見ていると、愛らしくこちらまで気持が癒されて、時間の経つも忘れてしまう。

撮影：出版メディア業務課 中谷 渉



イベントのお知らせ(3月)



うちなだ・夕べのひとときコンサート 17:00～ (場所:新館1階ロビー)

日程	内容	演者
3月4日(水)	児童合唱	金沢市立千坂小学校合唱団「ドリーム」
3月18日(水)	ソプラノ&ピアノ	表まり子、山田 ゆかり

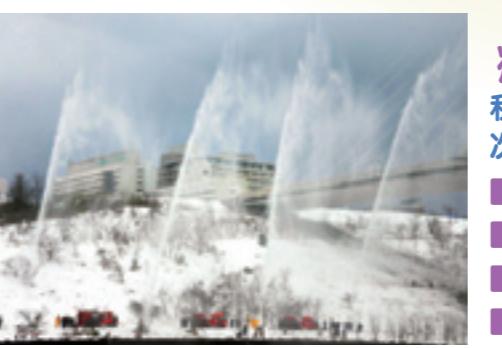
ふれあいタイム (場所:新館1階ロビー)

3月14日(土) 13:30～14:30	相撲甚句	相撲甚句の会
3月14日(土) 14:30～15:30	オカリナ演奏	ハマナスフレンズ

※敬称略

あなたに贈る健康へのメッセージ — 知ってください病院のこと、身体のこと

医科大どおり



病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

下肢静脈瘤に対する高周波アブレーションカテーテル治療について (血管外科)

下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤とは、静脈内の弁が壊れて静脈血が心臓へ流れずに、逆流して静脈内に血液が溜まって瘤状に膨らんだ病気です。症状としては、足が「むくむ」「だるい」「こむら返り」「慢性的な湿疹」など多彩です。静脈瘤にはいろんなタイプがありますが、手術が必要になるのは“伏在型静脈瘤”と呼ばれるタイプです。原因として最も多い“大伏在静脈（足首から脚の付け根の体表付近の内側を走行する静脈）の逆流による下肢静脈瘤”は、脚の付け根を切開して、大伏在静脈を抜去する手術（ストリッピング術）が今まで主に行われてきました。

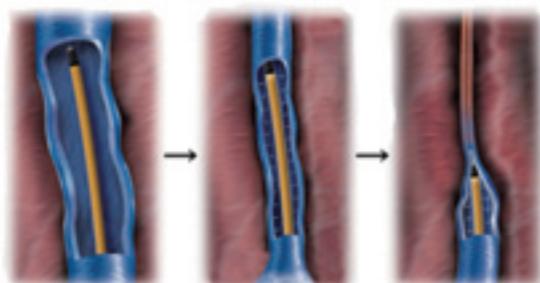
下肢静脈瘤の症状
がみられる下肢



高周波アブレーションカテーテル治療(RFA)

新しい治療方法の高周波アブレーションカテーテル治療 (radiofrequency ablation; RFA) は、原因となる血管を抜去するのではなく、逆流している血管を閉塞して治療します。具体的には、脚の付け根を切開することなく、膝内側で針を刺して大伏在静脈内にカテーテルを挿入して、カテーテル先端にある長さ 7cm の発熱帯に高周波エネルギーを送って発熱させて血管壁を加熱し、血管を収縮させて閉塞することで血液が流れないようにします。静脈血の逆流を止めることで、静脈瘤内への血液貯留や鬱血による諸症状の緩和を目的としています。原因となる逆流源を治療した上で、静脈瘤を切除します（病状によっては切除が不要なこともあります）。

RFA は、術後疼痛と治療部位の皮下出血（皮下出血はある程度ですが出現します）において良好な結果を認めており、低侵襲的治療法であります。治療を希望される患者さんには、当院血管外科を受診していただき、超音波検査を行いまして、施術可能であるかどうかを判断したうえで詳細な内容を説明致します。病状に応じて様々な治療を組み合わせる場合もあります。



静脈内にカテーテルを挿入
カテーテルで静脈壁を加熱して血管を収縮させる
カテーテルを引き抜き静脈を閉塞させる

(記：血管外科 講師 小畠貴司)

病棟紹介（新館 10 階西病棟）

新館 10 階西病棟は病床 48 床（心臓外科・血管外科 20 床、形成外科 14 床、整形外科 14 床）からなる外科病棟で看護師 25 名、看護補助員 4 名が看護スタッフとして従事しています。4 科の外科病棟のため、月曜日～金曜日までの毎日が手術日で、あわただしい日々を過ごしております。今年度は看護師の新人を 4 名迎え 8 ヶ月が過ぎ、日々成長してきている事を喜ばしく思っています。

各担当科の主な疾患

心臓外科	虚血性心疾患、解離性動脈瘤、先天性心疾患などの心臓・大動脈手術
血管外科	下肢静脈瘤、腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など
形成外科	熱傷、四肢切断、関節硬縮、瘢痕硬縮、口唇口蓋裂、眼瞼下垂など
整形外科	変形性股関節症、変形性橈関節症、腰部脊柱管狭窄症など

特徴

毎週木曜日は多職種（医師・看護師・リハビリ技師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・退院調整看護師）が参加するカンファレンスで情報交換を行い、退院に向けての計画を立て、患者さんが 1 日でも早く回復できるように取り組んでいます。また、退院後の生活に不安がないように説明を行うよう心がけています。

ダイニングからは日本海が一望でき、晴れた日には美しい夕陽を見ることができます。

退院された患者さんが、再診時やリハビリ通院時に病棟に立ち寄っていただいたらしく、元気に回復し生活されている事がわかり、医療スタッフも元気づけられています。



カンファレンス



病棟スタッフ写真

(記：新館 10 階西病棟 師長 田口利恵)

冬に流行する感染症とその予防法について

冬が本番を迎え、いよいよ感染症の多い季節となりました。この時期最も多く発生し、子どもから大人まですべての人が気をつけなければならない流行性感染症がインフルエンザです。インフルエンザは例年年末頃から流行が始まり、年明け1～2月に流行のピークを迎えます。

インフルエンザとは

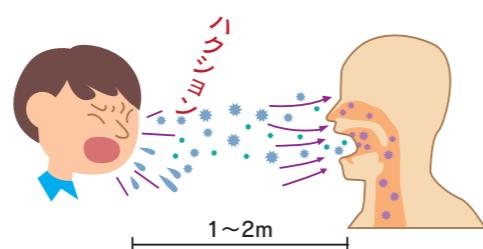
- 1 インフルエンザはインフルエンザウイルスによる季節性の流行性感染症です。
- 2 ウィルスの型は毎年少しずつ変わり、毎年のように流行を繰り返します。
- 3 ウィルスの表面のタンパク質で型が決まり、昨年はA型ではH1N1型(2009年パンデミック型)とH3N2型(A香港型)が流行しました。
- 4 ウィルスの型が大きく変わると、世界的な大流行(パンデミック)をおこします。

インフルエンザの症状と診断・治療

- 1 普通の風邪よりも、症状が重いことが多い、咳や痰などの呼吸器症状の他に、高熱や全身症状(倦怠感、筋肉痛)が強いことが特徴です。合併症として肺炎や脳炎などを起こすこともあります。
- 2 診断は、鼻咽頭のウイルスをチェックします。15～30分ほどで判定可能です。
- 3 治療薬として、ノイラミニダーゼ阻害剤(リレンザ、タミフル、イナビル等)が用いられています。

インフルエンザの感染経路

患者の痰やくしゃみなどで口から発せられるしぶきには多量のウイルスが含まれており、飛沫感染します。また、ウイルスで汚染された様々な環境から手を介して感染することもあります。



咳工チケット

咳やくしゃみがある方は、外出時には必ずマスクを着用しましょう。また咳やくしゃみはマスクやティッシュペーパーで口を押さえ、その後しっかりと手洗いしましょう(咳工チケット)。



インフルエンザの予防

- 1 ワクチン接種はインフルエンザの予防と合併症(肺炎など)を防ぐ有効な手段です。特に、肺や心臓などの基礎疾患のある方や乳幼児、高齢者の方は予防接種をおすすめします。
- 2 外出後には必ず手洗いしましょう。予防のため、うがいもおすすめします。



(記：感染症科 教授 飯沼由嗣)

おしらせ

病院新館総合受付周辺のご案内

平成26年11月10日より、病院本館閉館のため、病院新館に移動しました総合受付周辺についてご紹介致します。皆さまには、しばらくの間ご不便をおかけ致します。



- 2 新患・初診・再来受付**
紹介状をお持ちでない方はこちらで受付をして下さい。(予約のある方は再来受付をご利用下さい)



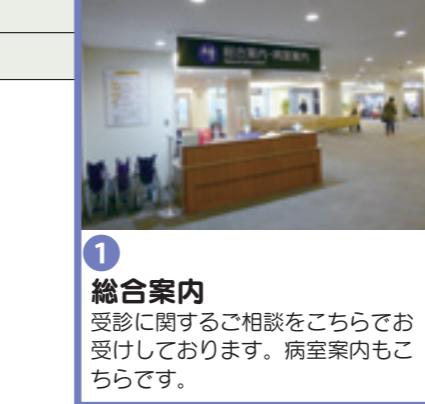
- 3 紹介受付**
紹介状をお持ちの方はこちらで受付してください。



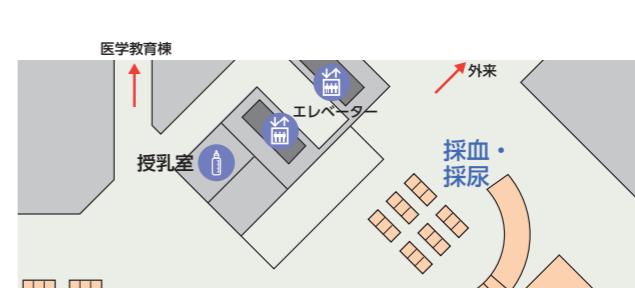
- 4 計算窓口**
診療が済みましたら、計算を行います。



- 1 総合案内**



- 1 総合案内**
受診に関するご相談をこちらでお受けしております。病室案内もこちらです。



- 5 自動精算機**
計算が終わりましたら会計番号表示盤にて番号が表示されますので精算をお願いします。現金、クレジット、デビットカードでのお支払いができます。



- 6 支払窓口**
精算は支払窓口で行うこともできます。(こちらは現金のみのお支払いとなります)



- 7 処方箋FAXコーナー**
院外処方箋がある場合は院外薬局へ処方箋をFAXします。

研修医紹介

このページでは、当院で勤務する研修医を紹介します。
皆さまのお役に立てるよう頑張りますので、
今後とも宜しくお願い致します。

2年次初期臨床研修医
内田 信彰(うちだ のぶあき)
埼玉県出身



【医師を志したきっかけ】

正直に言って大学に入るまでは特別に医師になりたいと思ったことはありませんでした。実家が診療所であり、兄達も医学部に入ったため、自然と自分も同じような道を選びました。しかし大学に入り医学を学んでいくうちに、もっと医学について知りたいと思うようになりました。また、研修医になり、苦しんでいる患者さんを少しでも助けられないかと思うようになりました。大学に入るまでは明確な思いはもっていませんでしたが、今では医学知識をしっかりと持った良医になりたいと思います。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

ある外科で研修をさせていただいたときに、緊急手術、症例発表の準備、地方会での発表準備と立て続けに重なってしまい、身体的につらい時期がありました。その時に上級医の先生から「あの時に比べたらと考えられるようになるから、今のうちに頑張ったほうがいい。」と言われました。その後の研修でもつらい時期はありましたが、あの時に比べたらと思い乗り越えられました。これからもつらいことはあるとは思いますが、頑張っていきます。

2年次初期臨床研修医
木下 香織(きのした かおり)
大阪府出身



【医師を志したきっかけ】

小さい頃の夢はピアノの先生になることでしたが、中学生の頃に事故で右手の親指を失ってしまい、夢を諦めざるを得ませんでした。大変辛い出来事でしたが、どうにかしてこの経験を生かしたいと考えた所、これは患者さんの気持ちを少しでも汲み取れるような力になるのではととらえ、医師を志しました。また、受けた手術のおかげで指の一部を残せたことも医学に興味を持ったきっかけで、将来は自分の手を治すつもりの情熱で再生医療の研究をし、結果的にたくさんの人の為になれば素敵だなという夢も描いています。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

ある時、間食が禁止されているにもかかわらず、いくら説明をしても止められないという患者さんが入院してきました。頭ごなしに咎めず、止められたらどうなるか、そのためにはどうしたらよいかをゆっくりと話し合い、その上の悩みをじっくりと聞いたところ、意識が変わったようで、自分から間食をやめ数値も改善したということがありました。医療者からの指導という一方的な治療ではなく、患者さんそれぞれの立場に立って考え、一緒に治していくというスタンスで治療を進めていくことが本当の医療につながるのではないかと実感しました。

リハビリニュース

リハビリテーションセンターが移転しました

場所は医学教育棟3階

病院の改修に伴い、病院本館地下1階から新設した医学教育棟の3階に移転しました。

約600m²の広さに理学療法室・作業療法室・言語聴覚室が1つの空間でつながり、開放的な空間でリハビリの提供が可能になりました。



排泄・入浴・調理などの練習も充実

自宅での生活を想定して排泄や入浴、調理などの練習が行えるような設備が新たに導入されました。多くの患者さんがこの設備を使用し、退院後の生活をイメージしながら練習に取り組んでいます。また、実際に調理を行うことも可能ですのでお気軽にお尋ねください。



排泄練習



入浴練習



調理練習



リハビリテーションスタッフ

(記：医療技術部 リハビリテーションセンター 作業療法士 入江啓輔、伊藤浩克)